

# JPMザ・ジャパン

## 第25期 運用報告書(全体版)

(決算日:2024年12月16日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「JPMザ・ジャパン」は、去る12月16日に第25期の決算を行いました。

当ファンドは、日本の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

### 当該投資信託の概要と仕組み

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	マザーファンドへの投資を通じ、日本の産業構造が変化していく中で、利益成長性が高く、株主を重視した経営を行っており、かつこれらの状況を市場が株価に織り込んでいない企業に投資を行います。	
主要投資(運用)対象	当ファンド	GIMザ・ジャパン・マザーファンド(適格機関投資家専用)受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	日本の産業構造が変化していく中で、利益成長性が高く、株主を重視した経営を行っており、かつこれらの状況を市場が株価に織り込んでいない企業に投資を行います。 ①利益成長性の高い企業②株主を重視した経営を行っている企業③左記2つの条件を満たしており、かつ、その状況が株価にまだ反映されていない企業
組入制限および運用方法	当ファンド	ファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて運用を行います。株式への実質投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合は、投資信託財産純資産総額の20%以下とします。
	マザーファンド	銘柄の選定は、運用チームが行う企業取材に基づくボトムアップ・アプローチ方式*で行います。 *ボトムアップ・アプローチとは、経済等の予測・分析により銘柄を選定するのではなく、個別企業の調査・分析から銘柄の選定を行う運用手法です。 ①徹底した企業取材を基にした分析②J. P. モルガン・アセット・マネジメントの国内およびグローバルでの情報の活用 運用プロセスは、(1)リサーチ、(2)レーティング、(3)ファンドの構築です。 株式への投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への投資割合は、投資信託財産純資産総額の20%以下とします。
分配方針	毎年1回(原則として12月14日)決算を行い、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

(注)当報告書における比率は、表示桁未満四捨五入です。

(注)「GIMザ・ジャパン・マザーファンド(適格機関投資家専用)」は「ザ・ジャパン・マザーファンド」または「マザーファンド」ということがあります。

(注)J. P. モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

### 〈お問い合わせ先〉

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社

ホームページアドレス am.jpmorgan.com/jp

TEL 03-6736-2350 (受付時間は営業日の午前9時~午後5時)

**JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社**

〒100-6432 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額	TOPIX(配当込み)				株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税込分配金	みなし騰落率	(ベンチマーク)	中期騰落率			
21期(2020年12月14日)	円 65,537	円 0	% 17.5	15,970	% 5.6	99.3	—	百万円 69,124
22期(2021年12月14日)	70,303	0	7.3	17,979	12.6	98.8	—	59,520
23期(2022年12月14日)	72,486	0	3.1	18,497	2.9	98.0	—	63,693
24期(2023年12月14日)	82,462	0	13.8	22,271	20.4	98.6	—	69,100
25期(2024年12月16日)	102,455	0	24.2	26,891	20.7	99.0	—	76,709

(注)当ファンドはマザーファンドを組入れますので、各比率は実質比率を記載しております。

(注)株式先物比率は買建比率一売建比率です。

(注)ベンチマークは、設定時を10,000として指数化しています。

(注)TOPIX(東証株価指数)は、株式会社JPX総研又は株式会社JPXの関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利、ノウハウ及びTOPIXに係る権利又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません(以下同じ)。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	TOPIX(配当込み)		株式組入比率	株式先物比率
		(ベンチマーク)	騰落率		
(期首) 2023年12月14日	円 82,462	% —	% 22,271	% —	% 98.6
12月末	84,840	2.9	22,734	2.1	98.1
2024年1月末	90,687	10.0	24,510	10.1	99.6
2月末	94,508	14.6	25,717	15.5	99.8
3月末	97,726	18.5	26,858	20.6	99.1
4月末	97,400	18.1	26,612	19.5	99.3
5月末	99,345	20.5	26,920	20.9	99.3
6月末	102,228	24.0	27,311	22.6	98.6
7月末	102,106	23.8	27,164	22.0	99.0
8月末	99,425	20.6	26,377	18.4	99.6
9月末	98,196	19.1	25,973	16.6	99.4
10月末	100,051	21.3	26,461	18.8	99.9
11月末	100,204	21.5	26,326	18.2	100.1
(期末) 2024年12月16日	102,455	24.2	26,891	20.7	99.0

(注)騰落率は期首比です。

(注)当ファンドはマザーファンドを組入れますので、各比率は実質比率を記載しております。

(注)株式先物比率は買建比率一売建比率です。

(注)ベンチマークは、設定時を10,000として指数化しています。

## 投資環境

### ◎日本株式市場

日本株式市場は前期末比で上昇しました。

- ◆期首から2024年3月にかけては、金融緩和の継続に伴った円安の進展を背景に上昇しました。海外投資家などの買い意欲は強く、2月には日経平均株価がバブル後の最高値を更新しました。その後、日銀が金融政策決定会合でマイナス金利政策の解除と長短金利操作の撤廃を発表しましたが、追加の利上げには慎重な姿勢を見せたことで安心感が広がり、株価は上昇しました。
- ◆4月以降、外国為替市場で円安・米ドル高が進行したこともあり、特に6月下旬から7月にかけて株価は上昇しました。その後、日銀の政策金利引き上げや米国の弱い経済指標の発表を受け、8月前半には大きく調整ましたが、米株高などが支えとなり反発しました。
- ◆9月には、自民党総裁選で石破氏が勝利したことを受け、円高・株安が進みました。しかし、10月以降は、石破氏の現実路線への転換を示す発言などを背景に円安が進行し、株式市場は安定しました。11月に、トランプ氏が次期米国大統領に決定し政策の不確定要素が注目されましたが、米国の堅調な経済指標を受けて株式市場は上昇し、期末を迎えました。

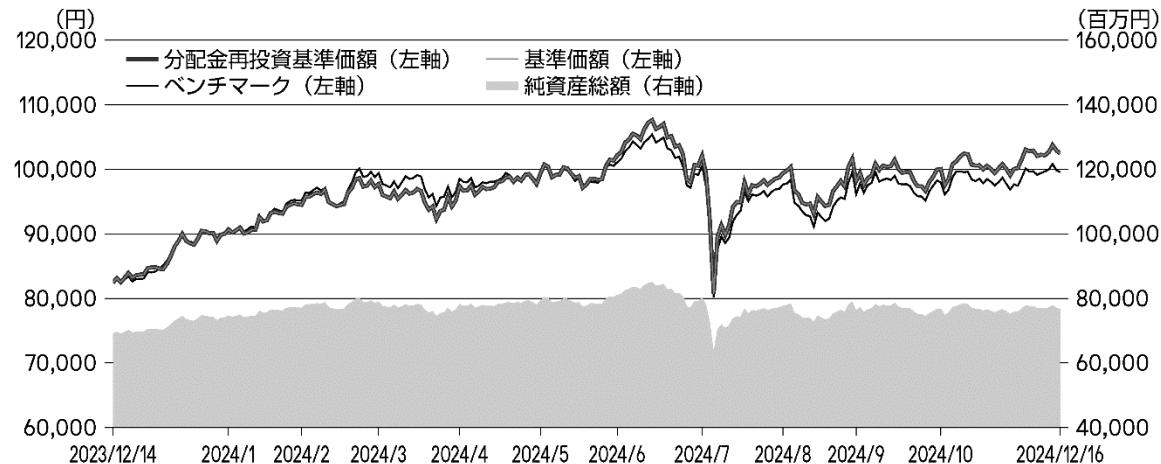
※上記市場の動向は、TOPIX(東証株価指数)を使用しています。

## 運用経過の説明

### ◎基準価額等の推移

○当ファンド: 基準価額(税引前分配金再投資)の騰落率は+24.2%となりました。

○組入ファンド: マザーファンドの基準価額の騰落率は+26.5%となりました。



(注)基準価額は、信託報酬控除後です。分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後のもので、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです(以下同じ)。

(注)分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません(以下同じ)。

(注)分配金再投資基準価額およびベンチマークはグラフの始点の日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

## ◎基準価額の主な変動要因

マザーファンドの受益証券を高位に組み入れた結果、マザーファンドにおいて、中長期的に独自の成長力を持つと判断して投資を行っている企業の株価が上昇したことなどが、基準価額のプラス要因となりました。

## ◎ポートフォリオについて

### ○当ファンド

マザーファンドの受益証券を高位に組み入れました。

### ○マザーファンド

セクター別の配分は、ボトムアップでの銘柄選択の結果によるものです。

独自の成長戦略を持ち、市場で成長性が十分に認知されていないと思われる銘柄の発掘に注力しました。中長期的に高い成長性が期待されるテクノロジー、ヘルスケア、エンターテインメントや社会インフラ関連の銘柄などを組み入れています。

## ◎ベンチマークとの差異

ベンチマークの騰落率は+20.7%となり、ファンドの騰落率はベンチマークの騰落率を上回りました。

### △主なプラス要因

- ・保険業、サービス業などの保有比率を対ベンチマークで高めしたこと
- ・陸運業、電気・ガス業などを非保有としたこと
- ・電気機器、卸売業、サービス業などにおける銘柄選択

### ▼主なマイナス要因

- ・化学、ゴム製品、情報・通信業などの保有比率を対ベンチマークで高めしたこと
- ・銀行業などの保有比率を対ベンチマークで低めとしたこと、非鉄金属などを非保有としたこと
- ・建設業、情報・通信業、不動産業などにおける銘柄選択

## ○分配金

基準価額水準、市況動向等を勘案し、無分配としました。留保益の運用については、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込)

項 目	第25期
	2023年12月15日～ 2024年12月16日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	92,454

(注)対基準価額比率は当期分配金(税込)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注)円未満は切捨てです。当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の見通しと運用方針

### ◎今後の見通し

- ◆ガバナンス改革の進展に伴って自己株取得の発表総額が過去最高を更新しましたが、株式市場では一定程度想定済みであることが多く、株価反応が限定的であったケースが少なからずみられました。これまででは株主還元拡充の有無が注目されてきましたが、今後はよりファンダメンタルズが重視される局面に入ってくると考えられます。
- ◆銘柄選択の際には、引き続き、企業の構造的な変化に注目することを重視しています。また、海外投資家は、日本企業が引き続き事業構造やガバナンス改革のスピードを維持できるかどうかに強い関心を示しており、各企業の対応状況にも注視が必要です。

### ◎今後の運用方針

#### ○当ファンド

マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指した積極的な運用を行います。

#### ○マザーファンド

日本の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。投資の視点としては、引き続き中長期的な独自の成長ストーリーを有する銘柄に注目し、投資を行う方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2023年12月15日～2024年12月16日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 1,828	% 1.880	(a)信託報酬=〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率  投信会社 投資判断、受託会社に対する指図等の運用業務、目論見書、運用報告書等の開示資料作成業務、基準価額の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価 販売会社 受益者の口座管理業務、換金代金等の支払い業務、交付運用報告書の交付業務、購入後の投資環境等の情報提供業務、およびこれらに付随する業務の対価 受託会社 信託財産の記帳・保管・管理業務、委託会社からの指図の執行業務、信託財産の計算業務、およびこれらに付随する業務の対価
(　投信会社　)	( 914)	(0.940)	
(　販売会社　)	( 806)	(0.830)	
(　受託会社　)	( 108)	(0.111)	
(b) 売買委託手数料	65	0.067	(b)売買委託手数料=〔期中の売買委託手数料〕 〔期中の平均受益権口数〕  有価証券の取引等の仲介業務およびこれに付随する業務の対価として証券会社等に支払われる手数料
(　株式　)	( 65)	(0.067)	
(c) その他の費用	5	0.005	(c)その他費用=〔期中のその他費用〕 〔期中の平均受益権口数〕  監査費用 信託財産の財務諸表の監査業務の対価として監査法人に支払われる費用 その他 信託事務の処理等に要するその他諸費用
(　監査費用　)	( 4)	(0.004)	
(　その他の　)	( 0)	(0.000)	
合計	1,898	1.952	
期中の平均基準価額は、97,226円です。			

(注)期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

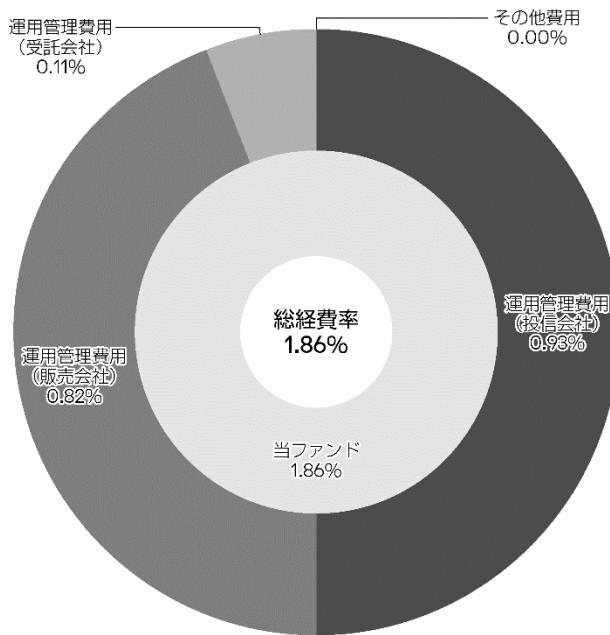
(注)各項目の円未満は四捨五入です。

(注)比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.86%です。



(注)当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注)各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注)各比率は、年率換算した値です。

(注)当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注)上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2023年12月15日～2024年12月16日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
ザ・ジャパン・マザーファンド受益証券	千口 823,546	千円 5,646,013	千口 2,289,115	千円 15,636,175

(注)単位未満は切捨てです。

## ○株式売買比率

(2023年12月15日～2024年12月16日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ザ・ジャパン・マザーファンド受益証券
(a) 期中の株式売買金額	179,512,933千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	97,580,716千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.83

(注)(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2023年12月15日～2024年12月16日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2023年12月15日～2024年12月16日)

該当事項はございません。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2023年12月15日～2024年12月16日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2024年12月16日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ザ・ジャパン・マザーファンド受益証券	千口 11,966,903	千口 10,501,334	千円 77,442,093

(注)口数・評価額の単位未満は切捨てです。

## ○投資信託財産の構成

(2024年12月16日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
ザ・ジャパン・マザーファンド受益証券	千円 77,442,093	% 99.7
コール・ローン等、その他	238,905	0.3
投資信託財産総額	77,680,998	100.0

(注)評価額の単位未満は切捨てです。なお、「コール・ローン等、その他」については投資信託財産総額から他の資産を差し引いた額を記載しています。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年12月16日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円
ザ・ジャパン・マザーファンド受益証券(評価額)	77,680,998,206
未収入金	77,442,093,460
未払解約金	238,904,746
(B) 負債	971,099,503
未払信託報酬	238,904,746
その他未払費用	730,544,757
(C) 純資産総額(A-B)	1,650,000
元本	76,709,898,703
次期繰越損益金	7,487,210,108円
(D) 受益権総口数	102,455円
1万口当たり基準価額(C/D)	

&lt;注記事項&gt;

期首元本額	8,379,752,924円
期中追加設定元本額	587,328,033円
期中一部解約元本額	1,479,870,849円
 当期末における未払信託報酬(消費税相当額を含む)の内訳は以下の通りです。	
未払受託者報酬 42,973,220円	
未払委託者報酬 687,571,537円	

## ○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

### 課税上の取扱いについて

- 普通分配金に対して、個人の受益者については、配当所得として20.315%（所得税および復興特別所得税15.315%、ならびに地方税5%）の税率で課税されます。なお、外国税額控除の適用となった場合、分配時の税金が前記と異なる場合があります。法人の受益者の場合、前記とは異なります。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

※上記は2024年12月末現在適用されているものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。詳しくは税務専門家（税務署等）にお問い合わせください。

## ○損益の状況 (2023年12月15日～2024年12月16日)

項目	当期
(A) 有価証券売買損益	円
売買益	15,678,440,906
売買損	17,638,125,189
(B) 信託報酬等	△ 1,959,684,283
(C) 当期損益金(A+B)	△ 1,444,284,217
(D) 前期繰越損益金	14,234,156,689
(E) 追加信託差損益金	17,316,628,402
(F) (配当等相当額)	37,671,903,504
(G) (売買損益相当額)	( 27,408,573,142)
(H) 計(C+D+E)	( 10,263,330,362)
(I) 収益分配金	69,222,688,595
(J) 次期繰越損益金(F+G)	0
(K) 追加信託差損益金	69,222,688,595
(L) (配当等相当額)	37,671,903,504
(M) (売買損益相当額)	( 27,418,274,721)
(N) 分配準備積立金	( 10,253,628,783)
(O) (分配準備積立金)	31,550,785,091

(注) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換算によるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,275,408,827円)、費用控除後の有価証券等損益額(12,958,747,862円)、信託約款に規定する収益調整金(37,671,903,504円)および分配準備積立金(17,316,628,402円)より分配対象収益は69,222,688,595円(10,000口当たり92,454円)ですが、当期に分配した金額はありません。

(注) 当期における信託報酬(消費税相当額を含む)の内訳は以下の通りです。

受託者報酬	84,763,781円
委託者報酬	1,356,220,436円

# GIMザ・ジャパン・マザーファンド (適格機関投資家専用)

## 第15期 運用報告書

(決算日:2024年12月16日)

(計算期間:2023年12月15日～2024年12月16日)

法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第15期の運用状況をご報告申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
運用方針	日本の産業構造の変化の中で利益成長性が高く、株主を重視した経営を行っており、かつこれらの状況を市場が株価に織りこんでいる企業の株式に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指し、積極的な運用を行います。
主要運用対象	日本の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への投資割合は、投資信託財産純資産総額の20%以下とします。

(注)当報告書における比率は、表示桁未満四捨五入です。

(注)「GIMザ・ジャパン・マザーファンド(適格機関投資家専用)」は「ザ・ジャパン・マザーファンド」または「マザーファンド」ということがあります。

### ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額	TOPIX(配当込み) (ベンチマーク)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産額
		期騰落率	中騰落率			
11期(2020年12月14日)	円 43,885	% 19.5	% 24,840	% 5.6	% 98.5	% 110,834
12期(2021年12月14日)	円 47,964	% 9.3	% 27,965	% 12.6	% 97.9	% 83,797
13期(2022年12月14日)	円 50,351	% 5.0	% 28,770	% 2.9	% 97.1	% 86,209
14期(2023年12月14日)	円 58,299	% 15.8	% 34,641	% 20.4	% 97.7	% 90,116
15期(2024年12月16日)	円 73,745	% 26.5	% 41,827	% 20.7	% 98.0	% 97,544

(注)株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注)ベンチマークは、設定時を10,000として指数化しています。

(注)TOPIX(東証株価指数)は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指標値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指標値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません(以下同じ)。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	T O P I X (配当込み)		株組入比率	株式先物比率
		騰 落 率	(ベンチマーク)		
(期 首) 2023年12月14日	円 58,299	% —	34,641	% —	% 97.7
12月末	60,026	3.0	35,360	2.1	98.0
2024年1月末	64,265	10.2	38,122	10.1	99.4
2月末	67,063	15.0	40,000	15.5	99.5
3月末	69,439	19.1	41,775	20.6	98.6
4月末	69,319	18.9	41,393	19.5	98.6
5月末	70,803	21.4	41,872	20.9	98.5
6月末	72,963	25.2	42,480	22.6	98.5
7月末	73,002	25.2	42,251	22.0	98.7
8月末	71,194	22.1	41,027	18.4	99.2
9月末	70,427	20.8	40,398	16.6	98.8
10月末	71,862	23.3	41,158	18.8	99.2
11月末	72,077	23.6	40,947	18.2	99.2
(期 末) 2024年12月16日	73,745	26.5	41,827	20.7	98.0

(注)騰落率は期首比です。

(注)株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注)ベンチマークは、設定時を10,000として指數化しています。

## 投資環境

### ◎日本株式市場

日本株式市場は前期末比で上昇しました。

- ◆期首から2024年3月にかけては、金融緩和の継続に伴った円安の進展を背景に上昇しました。海外投資家などの買い意欲は強く、2月には日経平均株価がバブル後の最高値を更新しました。その後、日銀が金融政策決定会合でマイナス金利政策の解除と長短金利操作の撤廃を発表しましたが、追加の利上げには慎重な姿勢を見せたことで安心感が広がり、株価は上昇しました。
- ◆4月以降、外国為替市場で円安・米ドル高が進行したこともあり、特に6月下旬から7月にかけて株価は上昇しました。その後、日銀の政策金利引き上げや米国の弱い経済指標の発表を受け、8月前半には大きく調整ましたが、米株高などが支えとなり反発しました。
- ◆9月には、自民党総裁選で石破氏が勝利したことを受け、円高・株安が進みましたが、10月以降は、石破氏の現実路線への転換を示す発言などを背景に円安が進行し、株式市場は安定しました。11月に、トランプ氏が次期米国大統領に決定し政策の不確定要素が注目されましたが、米国の堅調な経済指標を受けて株式市場は上昇し、期末を迎きました。

※上記市場の動向は、TOPIX(東証株価指数)を使用しています。

## 運用経過の説明

### ◎基準価額等の推移



(注)ベンチマークはグラフの始点の日の値が基準価額と同一となるように指教化しています。

### ◎基準価額の主な変動要因

中長期的に独自の成長力を持つと判断して投資を行っている企業の株価が上昇したことなどが、基準価額のプラス要因となりました。

### ◎ポートフォリオについて

セクター別の配分は、ボトムアップでの銘柄選択の結果によるものです。

独自の成長戦略を持ち、市場で成長性が十分に認知されていないと思われる銘柄の発掘に注力しました。中長期的に高い成長性が期待されるテクノロジー、ヘルスケア、エンターテインメントや社会インフラ関連の銘柄などを組み入れています。

### ◎ベンチマークとの差異

ベンチマークの騰落率は+20.7%となり、ファンドの騰落率はベンチマークの騰落率を上回りました。

#### △主なプラス要因

- ・保険業、サービス業などの保有比率を対ベンチマークで高めとしたこと
- ・陸運業、電気・ガス業などを非保有としたこと
- ・電気機器、卸売業、サービス業などにおける銘柄選択

#### ▼主なマイナス要因

- ・化学、ゴム製品、情報・通信業などの保有比率を対ベンチマークで高めとしたこと
- ・銀行業などの保有比率を対ベンチマークで低めとしたこと、非鉄金属などを非保有としたこと
- ・建設業、情報・通信業、不動産業などにおける銘柄選択

## 今後の見通しと運用方針

### ◎今後の見通し

- ◆ガバナンス改革の進展に伴って自己株取得の発表総額が過去最高を更新しましたが、株式市場では一定程度想定済みであることが多く、株価反応が限定的であったケースが少なからずみられました。これまででは株主還元拡充の有無が注目されてきましたが、今後はよりファンダメンタルズが重視される局面に入ってくると考えられます。
- ◆銘柄選択の際には、引き続き、企業の構造的な変化に注目することを重視しています。また、海外投資家は、日本企業が引き続き事業構造やガバナンス改革のスピードを維持できるかどうかに強い関心を示しており、各企業の対応状況にも注視が必要です。

### ◎今後の運用方針

日本の株式を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的に、積極的な運用を行います。投資の視点としては、引き続き中長期的な独自の成長ストーリーを有する銘柄に注目し、投資を行う方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2023年12月15日～2024年12月16日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 ( 株 式 )	円 46 (46)	% 0.067 (0.067)
(b) その他の費用 ( そ の 他 )	0 ( 0 )	0.000 ( 0.000 )
合計	46	0.067

期中の平均基準価額は、69,370円です。

(注)項目の概要については、前記当ファンドに投資している投資信託の運用報告書「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

(注)各項目は簡便法により算出し、円未満は四捨五入です。

(注)比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ○売買及び取引の状況

(2023年12月15日～2024年12月16日)

### 株式

		買付		売付	
		株数	金額	株数	金額
国内	上場	千株 22,472 ( 6,242 )	千円 83,176,889 ( - )	千株 48,315	千円 96,336,043

(注)金額は受渡し代金です。なお、単位未満は切捨てです。

(注)下段に( )がある場合は株式分割、権利行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2023年12月15日～2024年12月16日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	179,512,933千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	97,580,716千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.83

(注)(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2023年12月15日～2024年12月16日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2023年12月15日～2024年12月16日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2024年12月16日現在)

下記は、ザ・ジャパン・マザーファンド全体(13,227,297千口)の内容です。

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)	当期末		
		株数	株数	評価額
建設業 (1.7%)	千株	千株	千円	
五洋建設	1,039.8	—	—	
きんでん	—	538.8	1,667,586	
日揮ホールディングス	995.2	—	—	
インフロニア・ホールディングス	1,035.6	—	—	
食料品 (2.6%)				
アサヒグループホールディングス	212	—	—	
ライフドリンク カンパニー	—	674.9	1,524,599	
味の素	98.7	—	—	
ニチレイ	175.4	220.7	931,795	
化学 (8.8%)				
クラレ	689.4	636.1	1,452,216	
大阪ソーダ	—	284.8	571,308	
信越化学工業	768.4	308.3	1,604,701	
日本酸素ホールディングス	115.3	609.6	2,677,363	
東京応化工業	164	—	—	
花王	116.5	229.4	1,507,158	
日本ペイントホールディングス	262.9	275	291,225	
東洋合成工業	50.1	—	—	
メック	—	104.8	338,504	
医薬品 (3.2%)				
塩野義製薬	128.9	—	—	
ツムラ	—	252.1	1,218,147	
キッセイ薬品工業	—	77.8	274,634	
第一三共	421.1	234.9	999,264	
サワigroupホールディングス	265.4	296.1	601,823	
ゴム製品 (1.0%)				
横浜ゴム	446.1	307.7	990,486	
ブリヂストン	399	—	—	
ガラス・土石製品 (2.9%)				
東海カーボン	718.3	—	—	
MARUWA	—	45	2,072,700	
フジミインコーポレーテッド	146	—	—	
ニチアス	—	118	689,592	

銘柄	期首(前期末)	当期末		
		株数	株数	評価額
鉄鋼 (1.1%)	千株	千株	千円	
日本製鉄	408.7	—	—	
大和工業	233.6	138.7	1,040,250	
金属製品 (1.8%)				
三和ホールディングス	—	369	1,717,695	
機械 (4.8%)				
ディスコ	—	16.4	675,516	
SMC	29	—	—	
ローツエ	108.4	—	—	
荏原製作所	168.5	—	—	
ダイキン工業	64.5	—	—	
アマノ	—	145.1	624,365	
三井E&S	—	580.8	960,062	
IHI	—	277.9	2,287,117	
電気機器 (17.4%)				
日立製作所	205.6	1,070.5	4,258,449	
富士電機	62.2	58.1	507,968	
富士通	70.3	—	—	
ルネサスエレクトロニクス	681.4	—	—	
パナソニック ホールディングス	315.1	—	—	
ソニーグループ	403.9	1,243.8	4,134,391	
アズビル	—	635.2	781,296	
アドバンテスト	—	230.2	2,200,251	
キーエンス	34	60.3	3,871,863	
カシオ計算機	385.6	—	—	
村田製作所	470.4	—	—	
東京エレクトロン	51.6	36.1	853,945	
輸送用機器 (4.2%)				
デンソー	843.2	308.9	659,810	
スズキ	—	1,350.1	2,396,427	
シマノ	48.5	44.7	938,923	
精密機器 (6.8%)				
テルモ	212.3	695	2,130,870	
タムロン	—	207.4	900,116	

銘柄	期首(前期末)	当期末		
		株数	株数	評価額
HO Y A	千株	千株	千円	
	154.7	137.6	2,740,992	
セイコーグループ	—	144.5	679,150	
<b>その他製品 (3.0%)</b>				
パンダイナムコホールディングス	375.5	—	—	
任天堂	45	313.2	2,876,428	
<b>情報・通信業 (8.6%)</b>				
GMOペイメントゲートウェイ	—	56	475,720	
ラクス	—	382.4	722,736	
マネーフォワード	—	189.7	944,706	
Appie r G roup	—	430.4	600,408	
ビジョナル	149.3	—	—	
オーピック	—	193	932,190	
大塚商会	—	178.7	658,330	
東映アニメーション	—	280.8	1,060,020	
日本電信電話	21,663.5	—	—	
KDD I	449.7	—	—	
KADOKAWA	410.8	—	—	
スクウェア・エニックス・ホールディングス	155.9	—	—	
カブコン	—	508.1	1,746,847	
ソフトバンクグループ	—	116.8	1,100,372	
<b>卸売業 (5.4%)</b>				
伊藤忠商事	680.6	479.6	3,683,328	
サンリオ	—	326.2	1,447,023	
<b>小売業 (6.7%)</b>				
パルグループホールディングス	275.4	195.7	631,132	
コスマス薬品	—	171	1,147,410	
セブン＆アイ・ホールディングス	—	758.1	1,902,831	

銘柄	期首(前期末)	当期末		
		株数	株数	評価額
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	千株	千株	千円	
	469.2	658.7	2,763,905	
しまむら	56.5	—	—	
ニトリホールディングス	65.1	—	—	
<b>銀行業 (6.5%)</b>				
楽天銀行	—	731.4	3,149,408	
三菱UFJ FInancial Group	2,707.1	1,218	2,261,826	
三井住友フィナンシャルグループ	328.1	217	815,920	
<b>証券・商品先物取引業 (0.4%)</b>				
ウェルスナビ	241.2	—	—	
マネックスグループ	—	371.4	395,169	
<b>保険業 (4.1%)</b>				
東京海上ホールディングス	911.2	711.7	3,956,340	
<b>その他金融業 (2.7%)</b>				
オリックス	511.4	569.3	1,883,813	
日本取引所グループ	—	355.4	650,204	
<b>不動産業 (0.4%)</b>				
パーク24	385.9	195.6	361,371	
<b>サービス業 (5.9%)</b>				
サイバーエージェント	—	457.4	519,606	
ジャパンマテリアル	—	264.3	450,102	
シグマクシス・ホールディングス	187.8	327.7	290,342	
リクルートホールディングス	529.9	217.2	2,513,004	
セコム	—	358.6	1,906,317	
<b>合計</b>	<b>株数・金額</b>	43,798	24,197	95,619,380
	<b>銘柄数 &lt;比率&gt;</b>	60	66	<98.0%>

(注)銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注)評価額欄の( )内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注)評価額の単位未満は切捨てです。なお、株数が表示単位未満の場合は小数で記載しております。

(注)株数に一印がある場合は組入れなしを表します。

## ○投資信託財産の構成

(2024年12月16日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
株式	95,619,380	97.8
コール・ローン等、その他	2,182,420	2.2
投資信託財産総額	97,801,800	100.0

(注)評価額の単位未満は切捨てです。なお、「コール・ローン等、その他」については投資信託財産総額から他の資産を差し引いた額を記載しています。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年12月16日現在)

項目	当期末
(A) 資産	円
コール・ローン等	97,801,800,602
株式(評価額)	233,791,075
未収入金	95,619,380,850
未収配当金	1,929,524,677
未取配当金	19,104,000
(B) 負債	257,506,315
未払解約金	257,506,315
(C) 純資産総額(A-B)	97,544,294,287
元本	13,227,297,711
次期繰越損益金	84,316,996,576
(D) 受益権総口数	13,227,297,711口
1万口当たり基準価額(C/D)	73,745円

<注記事項>

- 期首元本額 15,457,762,541円
- 期中追加設定元本額 1,180,523,124円
- 期中一部解約元本額 3,410,987,954円
- 元本の内訳
- JPMザ・ジャパン 10,501,334,797円
- GIMザ・ジャパン(適格機関投資家用) 248,560,584円
- JPMザ・ジャパン(年4回決算型) 2,477,402,330円

## ○損益の状況

(2023年12月15日～2024年12月16日)

項目	当期末
(A) 配当等収益	円
受取配当金	1,895,875,245
受取利息	1,895,993,314
その他収益金	3,627
支払利息	1,345
(B) 有価証券売買損益	△ 123,041
売買益	20,754,785,178
売買損	25,789,994,874
(C) その他費用等	△ 5,035,209,696
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 371,718
(E) 前期繰越損益金	22,650,288,705
(F) 追加信託差損益金	74,658,891,820
(G) 解約差損益金	6,907,436,621
(H) 計(D+E+F+G)	△19,899,620,570
次期繰越損益金(H)	84,316,996,576
	84,316,996,576

(注)損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注)損益の状況の中で(F)追加信託差損益金あるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注)損益の状況の中で(G)解約差損益金あるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。